

令和7年度第1回静岡県立看護専門学校学校関係者評価委員会会議録

日時	令和7年8月19日(火) 午後4時00分から午後6時00分まで
場所	静岡県立看護専門学校会議室
出席者 職・氏名	(委員) 平賀 聖悟 (三島総合病院名誉院長) 杉山 眞澄 (静岡県看護協会(保健師職能理事)) 上藤 美紀代 (ヴォイスセラピー実践研究家) (委員3名 敬称略、順不同) (学校) 蕪木宏一校長、森上美知子副校長、深澤真嗣総務課長、 長谷川明子教務課長、渡邊静世看護1学科長、渡邊千恵子看護2学科長、 廣瀬順助産学科長
議題	・学校自己評価について
配布資料	・令和6年度静岡県立看護専門学校自己評価表 ・職員アンケート結果
備考	

1 開会あいさつ

(蕪木校長)

学校関係者評価委員会の開催に当たり、平賀委員、杉山委員、上藤委員には、大変御多忙の中、御出席を賜り、また、引き続き当評価委員会の委員に御就任いただき心より感謝申し上げます。

この会議は、専門的な知見を有する委員の皆様から、学校の取り組みに関する自己評価や学校運営等に関して評価、ご意見をいただき、いただいたご意見等を基に本校において課題等の改善に取り組み、適正な学校運営を図っていくことを目的として、平成2年度に設置し、毎年度開催している。

今回評価の対象期間の令和6年度は、コロナ禍が明け、以前の活動状況に戻ってきた時期であり、感染拡大防止に配慮しつつ、授業や実習を円滑に実施し、学生の学びの質を低下させることがないように学校運営に工夫して取り組み、また、50周年記念式典を行い、講演会やパネルディスカッションを実施した。国家試験の合格状況については、看護師試験、助産師試験とも全員合格、合格率は100%を達成した。さらに、カリキュラムの改正に伴い、ICTを活用した効果的な教育を実践するため、環境整備などにも取り組んだ。

こうしたことを踏まえ、令和6年度の学校としての自己評価を行った。本校の令和6年度の学校自己評価、取組状況などについて、委員の皆様から忌憚のないご意見をいただきたい。

2 委員長選出

静岡県立看護専門学校学校関係者評価委員会設置規程に基づき、委員の互選により平賀委員を委員長に決定した。

(平賀委員長)

この評価委員会が始まった時に声をかけていただき、もう5年経つ。一番の基本は、この学

校を良くして、レベルを上げて優秀な学生を育てて…とそういう気持ちは皆さん共通だと思う。それに何がしかのお役に立てれば幸いだと思う。よろしくお願いします。

3 結果概要

委員長が議長となり、資料1に沿って、教育理念・学校運営等の9大項目について各項目ごとに、蕪木校長から、令和6年度 of 取組、職員アンケート結果、これらを踏まえた学校自己評価結果を説明のうへ、各委員から自己評価結果に対する評価、ご意見をいただいた。

【委員からの質疑、評価及び学校からの説明】

(1) 教育理念・目標

(平賀委員長)

学校便りを定期的に送付しているが年何回か？保護者あてか？

(長谷川教務課長)

保護者あてに年1回である。

(杉山委員)

学校便りはきれいに作ってある。ホームページに掲載し、定期的に更新するとよいと思う。

「(4) 学校の理念・目的・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか」というところが評価点はかなり上がっている(0.4点)。そこはかなり評価できる内容であり、皆さんが努力されていることがわかるが、学生アンケートでは、もう少し頑張っ欲しいという結果である。

(上藤委員)

杉山委員と同意見である。

(2) 学校運営

(平賀委員長)

導入した機器の名前がいくつかあるが、説明されたい。

(長谷川教務課長)

(「高機能シミュレーターSCENARIO」「デブリーフィング&データ管理システム「ふりかえ朗」」「電子教育電子カルテシステムの「Medi-EYE」」「フィジカルアセスメントモデル」「電子黒板」について、機能面を中心に説明。)

看護過程に沿った患者さんの状況を学内で作り出すのが難しいので、高機能シミュレーターなどで、より臨床に近いもので学習しようとしている。

(平賀委員長)

教員側と学生側の反応はどうか？

(渡邊(静)学科長)

学生側で言うと、「電子カルテ」は、学内で使っているのもので病院に行った時にもイメージができ、すぐに自分が欲しい情報にたどり着き易くなった。電子化によって、衛生的な手洗いの場面を動画で撮って、それを教員に提出して、その動画に教員が個別にコメントをして返す、ということもできている。正常だけでなく異常も分かるので、正常と異常の比較から学習できたことを実習の方に持っていけるようなこともある。学生との話の中では、学生達はその現場に行った時に使える知識や経験になっていると感じる。

教員側で言うと、教員自身がデモンストレーションを動画で撮り、学生に配信してそれを教材にすることもやっている。今までは、テキストにある写真を追っかけてたが一連の流れとして、看護援助が見れるメリットもある。また、若い先生方が積極的にそういうツールを使いながら授業展開をしている。一度配信してしまえば、学生達にもちゃんとしたポイントを意識的に伝達ができるメリットも感じているようだ。

(杉山委員)

「(10) 病院等に対するコンプライアンス体制が再整備されているか」の評価点が上がっているところはいいが、具体的にはどういう工夫や改善をされたのか？

(渡邊(千)学科長)

実習連絡会議等で指導者と話しながら、学生の特徴を伝えることにより、今の学生がどういう言葉で傷つきやすいか、などをしっかり伝えることにより、指導時に学生に伝える言葉を選んでやっていただくようにした。そのことが積み重なって、指導者たちも自分たちの指導研究もしているのもので、学校の要望と病院の学習内容が合っていてコンプライアンスがうまく調整でき、厳しすぎない指導、学生が分かり易い指導を言葉や考えで伝達してもらえるようになってきた。

(平賀委員長)

「(9) 人事、給与、教務及び財務に関する規程等を整備されているか」が、評価点が0.3下がっているのも気になる場所である。どのように考えているのか？

(森上副校長)

教員数は規程どおりだが、年度初めに退職が発生し、会計年度任用職員で補充したこともあったので、そういうところを見て教員が「整備されていない」「外れている」と捉えられたのかもしれない。

(杉山委員)

教員の顔ぶれがかなり変わったのか？

(長谷川教務課長)

令和6年から副校長兼教務課長の兼務が外れ、副校長と教務課長を独立で置くことになっ

たが、1学科の定員が増えたわけではなく、教務課長入れての12人体制になった。教務課長は教務課長の仕事があり、課員には課員の仕事があつてという中で、1人当たりの仕事量が増え、また、年度当初に欠員が生じ、さらに、短期だが病気で学校に来れなくなった教員もあり、そのカバーなどもあり時間外労働時間が増えた。様々な負担感が増した年であった。

(渡邊(千)学科長)

本来12人のところ欠員が出てプラス病欠が2人出たので、最低9人で何ヶ月間か回した時期があり、その時期、皆が残業続きで実習にも出てという状況だった。多分、その時期の経験が大変印象に残っていて評価に繋がったのではないか。

(平賀委員長)

要改善点がある。人事の問題だからすぐにはいかないけれども、そのまま見過ごすわけにはいかない。努力目標にしておかないといけないと思う。

(3) 教育活動

(上藤委員)

「ロイロノート」とはどのようなものか？

(長谷川教務課長)

学生が入学時にiPadを購入する。そのiPadから『健康管理』でいうと、朝「体温測りました」「症状あります」などをデータで入れると教員側へ自動的に見えるので、全員の健康管理、それもクラス単位で見ることができる。『課題の提示』では提出すべき課題を個々に提示でき、なおかつ、提出箱みたいなものに入れると提出できる。時間指定もでき、オープンやクローズを教員の方で指定できる。授業中ではグループワークをした時には、学生が今何をやってるかをその都度見え、大きな画面に映して共有でき、学生個々のiPadで見えることもできる。

(渡邊(静)学科長)

授業中に学生とレポートのやりとりもすぐでき、学生達が手書きで書いたものもそのまま写真を撮ってロイロノートの提出箱に提出すると、クラスのグループワークの発表時にすぐに使える。先ほど話した動画の提出もロイロノートで提出し、それに教員がコメントをしてまた本人に返すと言ったような、タイムリーに学生と教員との中の相互作用の中で、レポートの提出確認といったことが容易にできる。外部講師の資料もロイロノートで配信すると、今までモノクロでしか見れなかったり、小さな字で隅々まで分からないようなところもデータで配信すると、しっかりと情報確認ができ、学習し易くなっている。

(長谷川教務課長)

紙でやりとりしているとタイムロスが必ず出たが、そういうことがない。全てデータの受け渡しになるので、見易いし管理もし易くなる。ペーパーレスにもなっている。iPadに入れるので授業資料を大きくして、細かな解剖図がコピーだと見えにくかったところも解消できる。iPad

へデータでもらえると、拡大して見れるので鮮明に見えるようになった、というのもある。

(平賀委員長)

例年、教員の勉強の機会が少ない、研修に行きたいけど行けない、ということが評価委員会の中で話題になった。これが令和6年度、研修会が22、延べ83人が参加したとなっているが、画期的にそういうチャンスが増えたと考えていいのか？デジタル化していることも関係しているかもしれないが。

(長谷川教務課長)

過去に比べると増えている。R6年度は人数的に厳しさがあったのでこれぐらいだったが、学会とかにも行っていただきたいと思っている。ICT化すると今度はICTの研修にも行かせたくなる。そういった意味では新しい知識を入れていかないと、と考えている。

(平賀委員長)

自己啓発等休業を取得した教員がいるようだが、最近できた制度か？前からあった制度か？

(長谷川教務課長)

5年以上勤務した教員に適用される。休職することにはなるが、2年以内で大学院への進学希望が認められたので、今年1人が休職してこの制度を活用している。

(蕪木校長)

前からあった制度だが、利用していなかった。

(長谷川教務課長)

自己研鑽に行くような教員がなかなか現れなかったのと、業務多忙で考えが及ばないということもあった。令和6年に1人教員が手を挙げたことにより、制度が使えることが分かった。

(平賀委員長)

前向きで大変いいのではないか。学生の質を上げるだけでなく、教員の質も上げないと、学生もレベルが上がってこないのでは。

(4) 学習成果

(平賀委員長)

国家試験合格率100%というのが大変結構で、これは専門学校の目標の一つだが、今のICT化教育を受けた学生ではない。ICT化のシステムは、ここ1～2年位だろうからそれを反映した結果とは言えない。国家試験を受験した学年は、前の旧体制システムでの学生。

私は、去年から学生がiPadを持ち出したことで非常に心配した。画面を見てノートをとらない。先ほど説明があった様々な優れものを利用していけば、むしろ能力が伸びるか分からないが。今までは、教科書に脱線話を含め自由に色々書けた。教師が話したメモをしっかりと

り、ノートや教科書の余白に書いたり。今は全部教科書が iPad に入っている。画面を見ながら書ける学生がいると思うが、聞いてみると、必ずしも得意な学生ばかりではない。一番最初、iPad を使う学生を見た時、「大丈夫かな？」と懸念した。それを3年間続けていって合格率が維持できるかどうか？合格率は向上するのか？未だに懸念するところはある。だから今年の合格率100%をもって今のシステムを過大評価できない。学習成果ということは事実で間違いはない。評価できる。

(杉山委員)

DMA Tで活躍中の卒業生から、講義したいと申し出があり、講義をしたというのは非常にいいと思う。それ以外にも、専門の領域で活躍をしてる方がいると思うが、そういう方に講義していただくとロールモデルになってくる。就職後も相談に乗っていただけるとか、道筋みたいのが見えてくるとか。大いにそういう方を開拓してほしいと思う。何より退学者が減ったのは、先生方の指導の賜だと思う。

(上藤委員)

「(28) 看護師、助産師の資格取得率の向上が図られているか」が、ちょっと評価点が下がっているのはなぜか？

(渡邊(静)学科長)

職員アンケートの調査日が国家試験合格発表前だった。そのため、前年度の結果を受けている可能性がある。国試対策は本当に強固に頑張ってくれていたところだったが、この0.1点下がった理由ははっきりと分からない。

(渡邊(千)学科長)

長期休みのところの各種対策で、計画的にどんな順番で教員がやっていくかなどの決定が遅くなってしまうたり、確か去年は台風が来たため、台風で潰れたところをどう補うかの話し合いに時間がかかったり。結局、夏にやる予定だったものを冬にやることになったため、そういうところの印象があったのではないかと。しかし、結果的には良い結果に結びついている。

(5) 学生支援

(上藤委員)

就職相談会に参加した看護学科の学生101人の学年は？

(長谷川教務課長)

最高学年は就職先が決まっているので、学年は最高学年以外の1、2年生である。

(上藤委員)

学生の礼儀正しさや積極性が高評価だということだが、私は「人間関係論」を担当していて、1年生の最初の頃は「大丈夫かな？」「やる気ある？」と思うような学生がいたが、高評価とい

うことで、先生方の御努力に感謝したいと思う。

(渡邊(静)学科長)

就職相談会の開催時期は12月。先生の授業が基盤になりながらも全員が実習にも行っているため、対外的なところとの調整力という意味も含めて、多分いろんなマナーも身に付けていると思う。先生の授業は、学生達に聞いても基盤づくりとしてありがたく思っている。

(平賀委員長)

概ね評価が上がっている。「(35) 学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか」は、何でこんなに評価点が上がったのか？

(長谷川教務課長)

例えば『健康管理』の報告に、ロイロノートで管理をするようになり、手書きで書いていたものが不要になった。システムの的に整ったという意味合いと考える。

(杉山委員)

ハラスメント相談が学生から2件あったという件で。指導ガイドラインが昨年6月から改正され、「ハラスメント等に対する相談、カウンセリング等を行うものが定められ、当該者が必要な支援を受けられる体制の確保等の工夫を講じることが望ましい。」と改正されている。まずは外部のカウンセラーなどを充てて「なんでも相談していいよ」と受入れをしてあげた方が相談しやすいと思う。学生の受け止めは色々あるかと思うが、外部の方のほうが学生が話し易いと思うし、そこで評価をする先生方が相談を受けてしまうと「まずいかな」と思うので、ガイドラインが改正されているので対応した、という形を作った方がいいと思う。

(平賀委員長)

窓口は誰がなっているのか？

(長谷川教務課長)

副校長と総務課長、教務課長である。

(平賀委員長)

ハラスメント相談が2件ということだが、スクールカウンセラーが毎週来られて、そこで相談する学生は何人位か？

(長谷川教務課長)

相談の受付方法を変えたら予約する学生が増え、ハラスメントというわけではなく、自分の学校の学習方法とか、精神的な悩みなどの相談の件数が増えた。カウンセリングの実績は、R4年が11件、R5年が25件、R6年が35件で、この35件には教員の7件も含み、学生だけだと28件ということで増えている。

(平賀委員長)

非常に機能してるという数字だと思う。増える傾向にあるのか？

(渡邊(静)学科長)

教員から、落ち込んでる様子があったり、カウンセラーに繋いだ方がいいのではないかと思われる学生を面接の中で把握することもある。そのため、学生が主体的に行くこともあるが、教員の方から勧めることもある。

(平賀委員長)

それからもう一つ。アドバイスするカウンセラーの先生は公認心理士だと思う。精神科の先生ではない。この専門家の先生は職員の相談相手にもなりうる。精神科でいうとリエゾン精神医学なんですけど。病院で言うと。患者さんとの相談だけではなく、職員の相談にも乗れるはず。先生方だって落ち込むことがあるし、鬱になってしまう人もいる。色んな悩みを持っているわけですから。臨床心理士でも同じようにできるのではないか。教員を対象にするのは悪くないと思う。

(渡邊(千)学科長)

実際に教員も相談している。扱いが難しい学生に対応するときに、自分が実習の教員として行かなければいけない、実習中のその長いスパンを1人で向き合わなければいけない時にどういう対応をしたらいいか相談させていただいている。

(6) 教育環境

(平賀委員長)

「折りたたみ式ヘルメット」というのはあまり知らないが。

(長谷川教務課長)

畳むとこれ位（5cm位）になり、引っ張り出すと兜みたいに被れるようになっている。

(平賀委員長)

これは学生に購入させるのか？値段はどのくらい？自己負担？最高学年の学生にも購入させるのか？

(長谷川教務課長)

4000円位。購入時期が卒業の2ヶ月ぐらい前だったので、在校生だけ購入し、最高学年は購入しないことにした。今年から入学生全員購入している。

(杉山委員)

「教育環境」は全体的に評価点が3点以上になっているので良い評価だと思うが、妊婦の福祉避難所になっているのは施設があるからか？

(蕪木校長)

協定を結んでおり、災害時妊婦避難所になっているが、具体的に何をやるというところまでは、明確になってない。

(長谷川教務課長)

本校は場所だけを提供することになっており、看護することはない。

(平賀委員長)

清水町の避難所にはだいぶ前からなっていましたね。でも一般市民が対象ではなく限定的な、妊婦さんの避難所。防災計画の中でそういう割当がされているから依頼されたのでしょう。

(杉山委員)

本当は福祉避難所としての備品なども本校で保管しておくとかあるはず。清水町が主体だと思うので、早めに話しを詰めないと、いつどういことが起こるか分からない。概略だけ決めて置く物は置いといてもらわないと。人員は、勤務中ならお手伝いができると思うが。県立看護専門学校(以下「本校」という。)は、助産学科があるから妊婦さんの福祉避難所にと考えたかもしれない。

(長谷川教務課長)

福祉避難所になったのは2年ぐらい前。場所を指定していて、看護学科の総論実習室と在宅看護論実習室だけを提供することになっている。

(廣瀬学科長)

物品は清水町が準備すると聞いている。実習室で分娩できる状態にはなっているが、例えば、酸素とか緊急時の対応ができる準備はしていない。モニター類とかあるが、あくまでダミーである。実際の赤ちゃんをとれるという形ではない。

(杉山委員)

清水町は何が必要か分かっていないと思う。本校には専門の先生もいるので、福祉避難所として話しを詰めて、必要な物を町で準備いただく方がいいと思う。

(7) 学生の受入れ募集

(上藤委員)

学生募集のために高校を訪問する時に、説明を行う相手はその学校の先生方のみか？

(森上副校長)

そうである。進路担当の先生にアポイントメントを取って説明をしている。

(上藤委員)

先生から生徒達にお話をさせていただく感じか？直接、生徒や保護者の方にPRするまでは出来ないか？

(長谷川教務課長)

高校訪問では出来ないが別の機会がある。例えば、令和6年だとナースセンターの事業の一環としての進路相談会が中部・西部・東部地区で行われた。様々な大学や専門学校が参加するため、高校生は興味のある学校の話しを直接聞けるので、生徒やその保護者の参加者も多かった。また、リクルート業者が企画する進路相談会では、学校へ訪問して生徒と直接話ができる、という機会もある。業者の企画した進路相談会はすべて参加した。ここにはかなり力を入れている。

(上藤委員)

私自身、静岡で困難を抱える女性を支援する支援者養成講座というのを受けており、講師も受講者もほとんどが看護師、助産師、保健師。だから、いかに社会貢献度の高い職業であって、いかに社会が必要としている職業かということ、私自身が皆さんにPRしたいくらい。素晴らしい職業なんだということ言いたい思いがすごくあり、若い子達にいかにその看護職が社会に必要とされていて、看護職に就くと、素晴らしい人生というか人間として豊かになれる、そういった職業なんだということ看護職ではない人間から言ってもいいのかな、そんな思いがある。是非、御一緒させていただきたい。本当に社会貢献できる、しかも素晴らしい人間になれるんだぞ、そういう話をさせていただく機会が欲しいくらいに看護職の魅力を実感している。

(平賀委員長)

学校の説明会には是非、お願いしたいですね。

(長谷川教務課長)

オープンキャンパスの場で発言いただくと、生徒や親が引き寄せられるのではないかと是非お願いしたい。

(平賀委員長)

四年制大学進学が看護業界の高学歴志向というか。この近辺では、東都大学が沼津に開設されたし、順天堂もその前からあるし。他に看護専門学校が6校ですかね。競争的な立地にはあるんだなっていうのがこれを見るとわかる。

狭い情報だけれども、親御さんたちの気持ちは第1志望が四年制大学らしい。やっぱり大学という名前に惹かれて、第1希望にしている人多そうなんです。四年制大学は学生を大勢とってますから、順天堂も160名、東都大学も100名ですかね？その次が専門学校だと本校はかなり人気は高いと思うんです。授業料の安さ、やっぱり県というバックボーンがあるのがね。専門学校の中では高いと思うんですけど。

以前、医療センターの院長と話したことがあるが、同じような悩みを言っていた。どうして

も四年制大学に学生がとられると。一学年それほど多くはないのでどうしても割を食ってしまうと。こういう基本的な環境というか、地域行政とともにどう勝ち抜いていくか、残っていくかが基本的な命題だと思う。本校もね。その中の評価としては結構高い、すごくいいと思うんですけど。学生募集とか評価が高いのでそれはいい方向に向かっているが、環境は依然として厳しい。

(上藤委員)

(本校は) 学生への面倒見の良さというのがある。

(杉山委員)

大学志向があるのは確かだが、子供が少ないというのはあるが、公立の大学でさえ低倍率になってきている。多分、私立の大学はもっと切実な問題であると思う。学生が集まらないと話にならない。オープンキャンパスも常葉大学などはすごい頻繁にやっている。外に向けてPRしていくのが大事。上藤先生がおっしゃったように、他の方面から見ると非常に大事で、一般の方にPRしていくイベントをやってもいいと思う。病院と何かやっていくのも一つの手というのと、国家試験の合格率とか学校案内の7ページのところに書いてあるが、合格率100%を達成するために手厚くフォローしてますというのをPRした方がいいと思う。「責任を持ってフォローしていきます」というのをPRするのは非常に大事なかなと思う。先生方の評価点もとても高いので、非常に頑張っていると思う。

(平賀委員長)

大変前向きないいご意見を生かしていただきたいと思う。

(8) 法令等の遵守

(平賀委員長)

昨年度比でかなり評価は上がっている。法令の遵守というのは、最初から比較的本校は県立のせいかわられていたと思う。そういう印象が強かったが一段と評価された。ICTの関係で色々起こったようだが、インターネット利用規程を作った。これが適切な対応がされていると思う。

(杉山委員)

点数は確かに高いのでいいと思うが、こういうようなコンプライアンスとか、特に個人情報に関しては多分、交付金とか公務員の中でも徹底されていると思うが、こういう研修会みたいな形で教員も研修会とか毎年のようにやっていって、こういうものをどんどん取り入れると「その手があったのか」「そんな抜け穴があったのか」というような漏洩ではないが出てくると思うので、情報を公開しながら研修会をやるといいと思う。

(平賀委員長)

4点満点だとすると9割で3.6点なので4点満点にはなかなか達しない感じがする。教員の

大勢の皆さんの総合的な評価だから、満点というところまでは少し距離があった感じがする。アドバイスを受けてしっかりと頑張りたい。

(9) 社会貢献

(杉山委員)

ボランティア活動をした学生が参加8人と書かれているが、活動した学生達が発表する場はあるのか？

(長谷川教務課長)

そういう場はないが、学生がボランティアをした後に、振り返りのペーパーを提出させている。

(杉山委員)

それは教員が見て終わりでしょうか？もったいない。例えばそういうのを外向けにPRしてホームページに掲載すると、そういう学生さん達がいるというPRにもなるし、他の学生も見ますよね。発表会の時間をとるのは難しいかもしれないので、そういう形で外に向けてアピールしていったらどうか。非常にいいことだと思うし、是非進めていただきたい。

それから、公開講座ですが、本校で先生方の公開講座をやるのもいいし、外の先生も活用して、シンポジウム方式でやってもいいと思う。「プレコンセプションケア」、こういうのも進めていただければ、学生さんにとってはすごく力になっていくし、是非これは進めていただけたらと思う。それ以外に公開講座みたいなものを「いくらでもやれる」というのは申し訳ないが、先生方だけで大変だったら講師の先生方にも協力いただいてやると、外に向けた地域貢献と自分達の力がついていくことになる。オープンキャンパスという形ではなくてもPRになるし、そこを意識してやってくれればと思う。

(平賀委員長)

市町の消防や消防学校から依頼されて、分娩管理の新生児心肺蘇生法など非常に専門的なところを教えに行かれたと。これはこれで大変良い。救急蘇生法というのは、消防署の人が救急センターの人がレクチャーをして、教える資格があるわけです。人体模型を持ってきて、あとAEDの使い方。6時間くらい教わると修了証が出る。今、私持っています。病院でも定期的にやって消防署の人が講師になる。こちらから教えに行くのではなく、向こうが教えに来てくれて、人体模型とAEDを持って来て、一定の実習を、人工呼吸もやってそれを一定時間講義もある。もうちょっと上のレベルもありますけど。逆にこのAEDの講習ってどうなのかなって気になったんですけど経験された先生方いますか？

(渡邊(静)学科長)

県の職員になった時に講習を受けて、一番最初の段階ですが、修了証を全県の職員が持っている前提になっていると思う。ただ、時間が経つと離れてしまう知識と技術になりかねないので、その辺は丁寧にフォローしていく必要があると思う。

(平賀委員長)

もう既に初期研修として受けられていると。そこはもうクリアされてると考えていいわけですね。入職した時点でそういう機会が来るわけですね。義務としてね。それならいいんですけど、要するに全部、同じ研修を受けているという。いいとは思いますが。それは県職ならでは、公務員ならではの共通のものになるんでしょうね。で、逆に消防署に教えに行くと。より専門的な部分については本校が出ないと、という関係になるわけですね。

(平賀委員長)

以上、大項目、9項目にわたって、評価委員の意見を出させていただいて質疑応答が終了しました。これで私の役割は終わらせていただく。

4 閉会

(森上副校長)

平賀委員長には、議事進行ありがとうございました。委員の皆様、貴重なご意見をいただき、本当にありがとうございます。ご意見は今後の学校運営に活かしていく。

以上で、令和7年度第1回静岡県立看護専門学校 学校関係者評価委員会を終了する。